

## 多様な武道等指導の充実 武道推進モデル校 事例報告

<h3>柔道・空手道</h3> <p>地域の指導者との連携により、武道の伝統的な考え方を深め、学習意欲を高める実践例</p>	<p>鹿屋市立吾平中学校（鹿児島県）</p> <p>電話番号 0994（58）7126</p> <p>メールアドレス aira_jhs_prinp@edu-kanoya.net</p>
--	--

### ●実践研究のねらい

- 柔道及び空手道に専門的な技能を有する地域の指導者を招聘し、武道の伝統的な考え方の理解、基本動作と基本となる技などを確実に習得させるとともに、保健体育科教員の指導力向上を図る。
- 礼法や受け身、形などを学ぶことが日常生活や他の活動に発展的に活用できるなど、武道に対する興味・関心を高めることを目指す。

### ●多様な武道の指導モデル 第1学年（2学級68名）

種目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
	柔道								空手道			
	導入(あいさつ・健康観察・学習の見通し)											
	準備運動・補助運動(基本動作)											
学習の流れ	オリエンテーション	基本動作の学習	受け身の練習					オリエンテーション	成り立ち・伝統的な考え方等の学習	簡易な組手の学習	形の団体戦に向けた練習	
	成り立ち・伝統的な考え方等の学習		固め技の学習	攻め技を用いて簡易な攻防を展開する学習	柔道学習のまとめ	成り立ち・伝統的な考え方等の学習	形の団体戦に向けた学習				形の団体戦	
	礼法・基本動作の学習	受け身の学習	立ち技の学習	柔道学習のまとめ		礼法・基本動作の学習	形の団体戦に向けた学習	形の団体戦		空手道の学習のまとめ		
	整理(整理運動・健康観察・振り返り・次時の連絡・あいさつ)											

### ●指導の工夫

#### 1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容の精選
 

武道経験がほとんどない生徒たちに対し、実態に合わせて段階的に学べるよう、単元が始まる前に保健体育科教員と地域の指導者で協議して指導内容や指導計画を見直し、共通理解を図った。
- T1, T2の役割分担の明確化及び本物を見る場の設定
 

授業では保健体育科教員がT1として、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程に沿って全体指導を、地域の指導者がT2として、具体的な動作のイメージがもてるよう実演と技のポイントや注意点などの技術指導を、個別指導は巡回しながらT1, T2で行った。

#### 2 生徒の安全を確保するための工夫

- 活動前には注意点を毎回確認し、危険と判断した場合、即座に活動を停止させた。
- 固め技をはじめに扱い、立ち技は段階的(低い姿勢から高い姿勢へ)に扱った。(柔道)
- 運動時の接触や密集を避けるため、間隔を確保して取り組ませた。
- 特別な支援を要する生徒には特別支援教育支援員がつき、安全対策を徹底した。

## ●授業の様子



### 【固め技の学習】

固め技をはじめに扱った上で、立ち技を段階的（低い姿勢から徐々に高い姿勢へ）に取り扱ったことで、意欲的に取り組ませることができた。



### 【地域の指導者による演舞】

専門家による実演を通して、迫力を感じさせたり、動作のポイントや具体的なイメージをつかませたりすることができた。

## ●生徒の意識、感想、変容など

1 地域の指導者が専門的に教えてくれましたがどうでしたか。	2 2種目の武道を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	3 2種目の武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	4 これからも多くの武道種目を学習したいと思いますか。
<p>とてもよく分かった 少しは分かった あまり分からなかった 全く分からなかった</p>	<p>高まった やや高まった あまり高まらなかった 高まらなかった</p>	<p>深まった やや深まった あまり深まらなかった 深まらなかった</p>	<p>思う やや思う あまり思わない 思わない</p>

## ●成果と課題

- 地域の指導者と連携した授業を通して、指導のポイントやコツなどを具体的に学べたことで、指導経験の浅い教員の指導力向上が図られるとともに、生徒たちも技能を正しく習得できた。
- 異なる種類を取り扱うことで、武道共通の伝統的な考え方や行動の仕方への理解が深まるとともに、武道に対する興味・関心が高くなった。
- TTでの指導体制により、個別指導や安全面への配慮も十分行うことができた。
- 柔道8時間の指導計画に空手道3時間を加えての単元計画としたが、授業を実施していく中で、特に女子生徒が空手道への興味・関心が高まるなど、柔道と空手道の取扱い時数や単元全体の時数が課題となったため、今後、他の領域とのバランスを考慮し、より生徒の実態に即した学習となるよう検討していく必要がある。